

CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 2 NCPRでeラーニングが始まりました
- 7 これからの学習支援サービスについて～フォローアップコース及び教材開発～
- 9 新生児蘇生法普及事業におけるトレーニングサイトの役割
- 10 新しいインストラクター養成講習会の開催状況と受講者の声
- 13 〈NCPR講習会開催だより〉

ごあいさつ

田村 正徳

日本周産期・新生児医学会 理事長
 埼玉医科大学総合医療センター小児科学教室教授
 同・総合周産期母子医療センター長

日本救急医療財団 日本版救急蘇生ガイドライン策定委員
 日本蘇生協議会 新生児担当理事
 国際蘇生連絡委員会 新生児部会タスクフォース委員



新生児蘇生法普及事業が日本周産期・新生児医学会の学会事業として発足して5年が経過し、本事業は「質」「量」とともに飛躍的に発展してきました。2012年9月末の時点で、新生児蘇生法専門コースインストラクターは1,767人となり、彼等の積極的な活動によって毎月100件前後の公認講習会が開催され、毎月1,200人前後の医療関係者に受講して頂いたという状況であります。（受講者累計；47,094名）

一方で、初期においてトレーニングサイト（以下TS）が東京と大阪に偏在したこと、およびAコース・Bコース公認講習会の開催にも地域偏在が顕著になったこと等から、新生児蘇生法委員会では茨聡副委員長（TSワーキンググループ長兼務）の陣頭指揮にて、全国のTSを14カ所に拡大整備しました。同時に、TSの役割を新生児蘇生法「専門コース」インストラクター養成講習会のみならず、新規にフォローアップコース（詳細は本文参照）も開催するという支援体制の強化を図りましたので、益々、TSの重要性が全国的規模で高まることになりました。

「専門コース」インストラクター養成講習会の新しい内容は、若い世代によるワーキンググループの精力的な取り組みのお陰でILCORの推奨する“Debriefing”の採り入れと共に、学んだことを日常の蘇生現場でも発揮して頂ける“Facilitator”育成に重点をおいたものに全面改訂されました。

せっかくインストラクターの資格を取得しても実際にインストラクター活動が消極的な方も少なくありません。上述の改訂に伴って、今後の「専門コース」インストラクター養成講習会の受講者には、これらに準じて各地で積極的に実践して頂くことを必須とし、その約束に基づいて関連学会や医会または協会等、各位が所属されている団体からのご推薦を頂くことを前提にした次第です。

『eラーニングシステム』ワーキンググループは、加部一彦グループ長を中心に2年余の検討会と試行錯誤を経て、ついに2012年7月、新生児蘇生法普及事業の柱として『Webを活用した教材』を完成させ、皆様にご覧頂けるようになりました。eラーニングは、認定者の日常的な学習（再履修）に有用であることは言うまでもありませんが、今年から始まる認定者の認定登録の更新にも活用され、これによって既に多くの方が更新されていることは大変に嬉しく思います。

TSにおける『フォローアップコース』とWeb活用の『eラーニングシステム』が標準として普及すれば、認定登録者の再履修に関する学習支援サービスはいつそう充実してくると思います。事務局の皆さんから精力的に提供される新生児蘇生法普及事業ホームページの情報をお見逃し無いよう宜しくお願い致します。

NCPRでeラーニングが始まりました

齋藤 誠

新生児蘇生法普及事業小委員会 委員
eラーニングシステムワーキンググループ
筑波大学 小児科

eラーニングシステムワーキンググループ

グループ長: 加部 一彦	(愛育病院)
岡 園代	(北里大学)
齋藤 誠	(筑波大学)
齋藤 有希江	(杏林大学医学部附属病院)
嶋岡 鋼	(国際医療福祉大学)
島袋 林秀	(聖路加国際病院)
杉浦 崇浩	(静岡済生会総合病院)
戸石 悟司	(成田赤十字病院)
中野 玲二	(愛育病院)
野村 雅子	(長野県立病院機構)
宮下 進	(宮城県立こども病院)

ご存知の方・もう受講された方も多いと思いますが、2012年の7月からNCPRのeラーニングが開講いたしました。今回開講にあたってeラーニングとはどんなものなのか?という話と簡単にNCPRのeラーニングの紹介をさせていただきます。

NCPRのeラーニングとはどんなものかということを知る一番の方法は、実際にeラーニングを受講することです。是非この記事を読まれたらさっそく登録してみてください。

日本における新生児蘇生法(以下、NCPR)講習会は2007年7月から開始され、2012年9月末までに30,554人がプロバイダー(Aコース18,463人、Bコース12,091人)として認定されています。NCPRのライセンスの更新は5年間ですから、初回の更新は2012年の7月から始まりました(最初のうちはほとんどがインストラクターですが・・・)。NCPRにおけるeラーニングは、この3万人を超えるプロバイダーの資格更新作業を円滑に行うという目的で開発が始まりました。また開発の途中でプロバイダーの継続学習という目的も加わり、当初の目的も変化してきました。

そもそもeラーニングってどんなものなのでしょう? 経済産業省が発行している「eラーニング白書」によると、eラーニングとは「情報技術によるコミュニケーション・ネットワーク等を活用した主体的な学習」と記載されています。またeラーニングの内容については「コンテンツは、学習目的にしたがって編集されており、学習者とコンテンツ提供者との間にインタラクティブ性が確保されている。」と記載されています(コンテンツ:eラーニングで用いる教材、インタラクティブ性:学習者が自らの意思で参加する機会が与えられ、学習を進めていく上での適切なインストラクションが適宜与えられていること)。

つまりeラーニングは、パソコンなどを使用して学習者が自らアクセスして勉強するツールであり、学習者が自主的に勉強しようと思わないと有効な学習効果が期待できないツールであるといえます。そのためeラーニングにより、効果的な学習を行うためには、eラーニングのコンテンツが魅力的であることも大切ですが、学習者のモチベーションが最も重要となってきます。

さて、みなさんはeラーニングというと、どのようなものを思い浮かべるでしょうか?パソコンの前にじっと座って動画を見て勉強するもの、と思われている方が多いのではないのでしょうか?このような講義形式の動画をみるコンテンツは「非同期型の受講形式」と呼ばれ、これまでの多くのeラーニングはこの形式でコンテンツを作成してきました。しかしながら、受講形式は、ただ流れている動画を見ているだけであり、また流れている動画も作成者が素人であることが多く、飽きやすい動画がほとんどでした。皆さんも講習会などで話がつまらないと飽きてしまって、眠くなってしまった経験をお持ちだと思いますが、直接受講していてもそうなるのですから、パソコンに向かって飽きずに画面を見続けるためには、学習者の高度なモチベーションと

IDとパスワードを取得し、eラーニングのサイトにログインするとまずNCPRのロゴが画面一杯にあらわれ、少しするとその画面がひいてきて、6個の大きな丸の周りに小さな丸がたくさんある図が見えてきます。この6個の丸には「生理学」「蘇生技術」「アルゴリズム」「NCPR」「準備(ここだけ少し小さい丸の「環境」と「物品」が付いています)」「シミュレーションルーム(開発中)」と名前がついており、これらがNCPR eラーニングの全てです。開発中の「シミュレーションルーム」を除いた5つの丸の周りには小さな丸があり、これが一つ一つのコンテンツになります。コンテンツは受講するとピンクに色が変わるので、最初の画面で自分がどれくらい受講しているか一目でわかりますし、受講したいコンテンツにも簡単なマウス操作のみでアクセス(すべてのコンテンツが、2クリックで受講)することができます。

一つ一つのコンテンツは、勤務時間の空いた時間にも気軽にアクセスできるように、2~3分間で受講できるようにしてあります。コンテンツの内容も文字を少なくし、イラストや写真、飽きない程度の短い動画で構成されています。またコンテンツの中に適宜、質問を入れることにより、ただ漫然とながめるだけではコンテンツを修了することはできず、自分で考えて行動しなくては、修了できないようにしてあります。とくに実

際の蘇生とは一見関係ないように見え、理解しにくい生理学の部分は、イラストや動画を使って分かりやすく説明してありますので、NCPRのテキストを読んでもあまり理解できなかった人は、是非生理学のコンテンツを受講していただければよろしいかと思います。(図2)

その他、学習者がどのような環境でもeラーニングを受講できるように工夫しています。具体的にはインターネット環境が悪い状況でもスムーズに進むよう、一つ一つのコンテンツの容量を軽くしておりますし、音声が出せない環境でも受講できるように、動画には音声に加えて字幕も入れてあります。(図3)

NCPRのeラーニングを全部受講するためにかかる時間は、ある程度の個人差はありますが、2時間から4時間ほどで全部を受講することができると思います。

最後に、NCPRにおけるeラーニングの今後の展開についてご紹介します。ワーキンググループでは現在2つのことを行っております。

1つ目は完成しているコンテンツの見直しです。今回作成したコンテンツの中には、まだまだ講義形式でただ見ているだけのコンテンツも多いので見直しを行っています。動画・静止画に関しても、ワーキンググループ自ら撮影したものが多く、必要に応じてもっと

図2 eラーニングのコンテンツ



図3

気道開通：吸引(吸引カテーテル使用)



停止 もう一回

吸引が必要な場合は、口→鼻の順に吸引します

クオリティの高いものに差し替えていこうと考えています。また、受講した方はご存知かと思いますが、今回コンテンツの終了時には、学習者の方にコンテンツの評価（アンケート形式）を行って頂いています。このアンケート結果でコンテンツの改修を行いたいと考えていますので、皆さんが受講したときには率直な意見をお願いします。

2つ目は、「2013年度開講予定」の「シミュレーションルーム」の作成です。こちらには、アルゴリズムを理解するためのマルチエンディングシナリオのコンテンツや蘇生に関連したミニコンテンツを作成する予定です。認定の更新には関係ありませんが、「シミュレーションルーム」には、ゲーミフィケーションの手法を取り入れて、アトラティブなコンテンツにしていきたいと思っています。ゲーミフィケーションとは、近年企業のホームページなどに取り入れられている手法（自動車メーカーなどが有名です）で、ゲームの要素を取り入れることで、楽しみながら商品の知識や使い方を知ることができ、またそのゲームをクリアすることにより、精神的な達成感や満足感を得て頂く手法です。今回、マルチエンディングシナリオも、ゲーミフィケーションの手法を取り入れて、なるべく学習者が楽しみながらアル

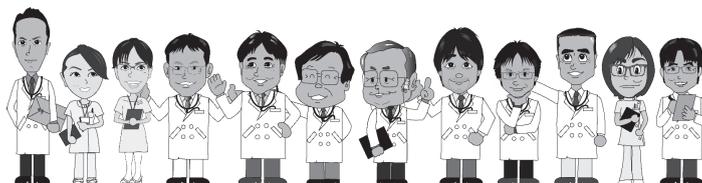
ゴリズムを勉強できるようにしたいと思っています。具体的にはマルチエンディングシナリオでは、NCPAのトピックスの一つになっているデブリーフィングやトラブルシューティング的な要素も加えたいと考えています。

デブリーフィングは、昨年から開始された新しい1コースで導入され、好評を得ている新しい教育方法であり、シナリオ実習後に学習者が自らのシミュレーションを振り返るという方法です。学習者はデブリーフィングを行うことで、より効果的なフィードバックができると言われています。マルチエンディングシナリオで学習者が選択した蘇生内容を、シナリオ終了後に学習者自らが振り返る（セルフデブリーフィング）ことにより、自分自身でフィードバックをしてもらおうと考えています。

トラブルシューティングは、何らかの原因により発生した異常状態を解決し、正常な状態に戻す方法のことです。具体的には、マルチエンディングシナリオ中に実際の新生児蘇生中に生じ易いこと（流量膨脹式バッグが膨らまない、喉頭鏡のライトが付かないなど）を発生させ、学習者にその対応を考えて頂くよう工夫します。

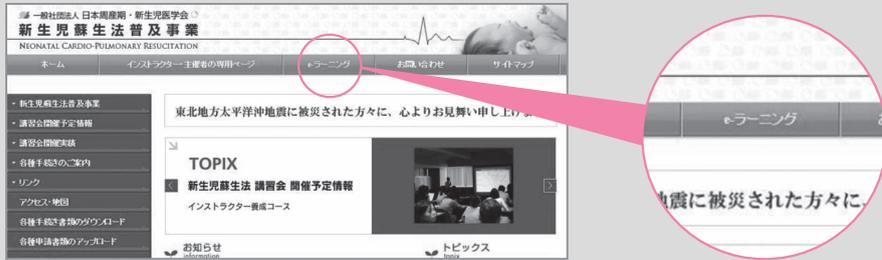
まだ「シミュレーションルーム」の作成は始まったばかりですが、来年の4月には皆様にお届けできると思いますので、よろしく願いいたします。

更新手続きや新生児蘇生法の継続学習に、是非eラーニングをご利用ください。



● NCPR e ラーニングは以下の手順で登録できます。

1 NCPRのHPからメニューの「e ラーニング」をクリックします。



2 「まだ登録していない方はこちら」をお選びください。



3 修了認定番号・メールアドレス・パスワードを登録してください。

パスワード設定

e-ラーニングを受講するには、まずパスワードの設定を行なって頂く必要があります。
下の全ての項目を入力し、次へお進みください。

修了認定番号:	<input type="text"/> - <input type="text"/>
	(半角数字桁2) (半角数字桁5)
パスワード:	<input type="password"/>
	(半角数字6文字以上15文字以下)
パスワード確認:	<input type="password"/> (上と同じものを入力してください)
お名前(漢字)姓:	<input type="text"/> 名 <input type="text"/>
お名前(カナ)セイ:	<input type="text"/> メイ <input type="text"/>
メールアドレス:	<input type="text"/>
メールアドレス確認:	<input type="text"/>
	(上と同じものを入力してください)

ご登録いただいたメールアドレスに受講登録確認メールが届きます。URLをクリックするとログイン画面になります。登録が完了すると、いつでもお好きな時に修了認定番号とパスワードでアクセスできます。

※有効期限をご確認ください。
有効期限が切れている方はご利用できません。

4 有効期限月の4か月前になると「更新モードにする」と「次へ進む」を選択できるようになります。継続学習の方は「次へ進む」を、更新のための履修の方は「更新モードにする」で履修をスタートしてください。

更新のお知らせ

認定更新の期限が近づいて参りました。

〇〇〇〇さんの有効期限は2012年12月31日です。

認定更新のためには、もう一度e-ラーニングの全てのセクションを受講して頂く必要があります。(更新モードでの受講とします)
よろければ、下の「更新モードにする」ボタンをクリックしてください。
※更新モードでもe-ラーニングの内容は従来と同じで変わりありません。

これからの学習支援サービスについて ～フォローアップコース及び教材開発～

和田 雅樹

日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法普及事業小委員会 委員長
新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 副センター長

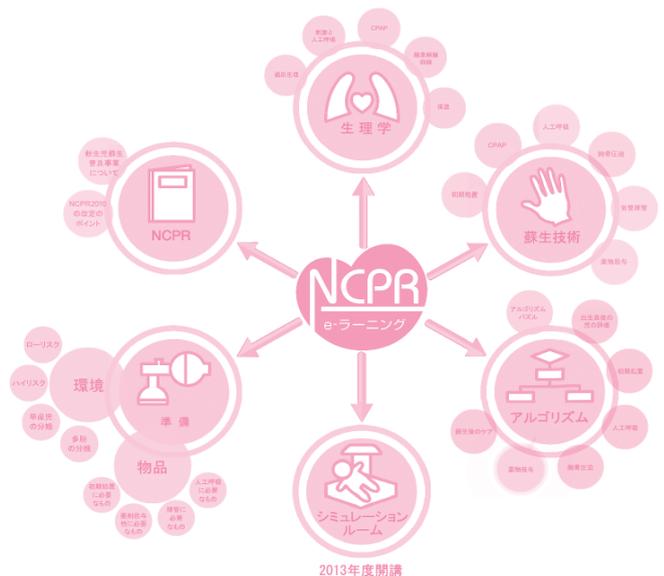
NCPR講習会も6年目を迎え、2012年9月末の時点で講習会開催数はAコースが1,718回、Bコースが1,525回で合計3,243回になっています。受講者数ものべ45,239名（Aコース24,821名、Bコース20,418名）となり、これは当初目標としていた5年間で約4万名を上回る人数になっています。皆様のご支援・協力の賜物と感謝致します。

一方で、これまでのNCPR講習会は主に新規受講者を対象とした学習支援に力を入れてきましたが、今後は更新も含めた既認定者への支援も重要な課題となってきています。そこで、現在、検討・実行されつつあるNCPRの学習支援サービスについて2つのKey Wordsをもとに述べてみたいと思います。

Key Wordsの一つ目は『学習者（受講者）主体』です。NCPR講習会を受講する際、学習者の利便性を確保し、さらに講習会の質を保障していく必要があります。そのため全国各地にトレーニングサイトを開設するとともに、そこでインストラクター養成コース（Iコース）を開催させて頂いています。そのIコース（新Iコース）ですが、これまでのものから大きく内容が改変されており、成人教育論を積極的に取り入れ、学習者主体の指導法を学ぶためのより実践的なものになっています。

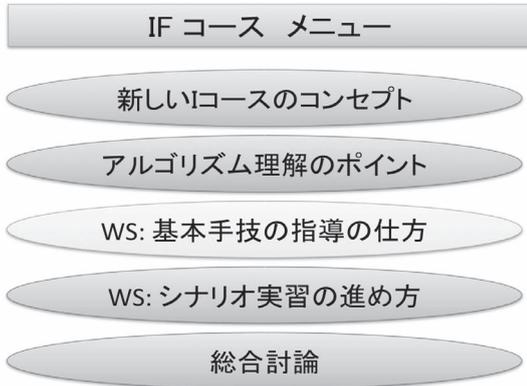
二つ目のKey Wordsは『継続学習支援』で

す。まず、NCPR認定後の継続学習支援として、本年からeラーニングが提供されています。eラーニングはインターネットが利用できる環境であれば自分の時間に合わせて自由に学習を行うことができます。さらに、今年から始まった資格更新のためのコンテンツとしても活用されています。ただ、ネット環境が必要なこと、実技実習ができないこと、リアルタイムの双方向性対話が出来ないことなど、それ単独では継続学習は部分的なものになってしまう可能性があります。



そのeラーニングを補完するものとして、本年9月よりインストラクターのスキルアップを目的としたインストラクター・フォローアップコース（IFコース・図1）が開催されています。

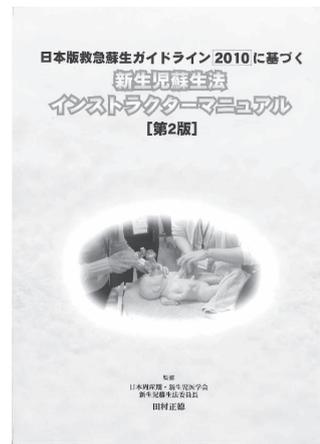
図1 IFコース



IFコースはまだ暫定版ですが、約3時間半のコースの中で、新Iコースの考え方の紹介や実技演習の実演、参加者によるディスカッションなどが行われ、今後全国のトレーニングサイトにおいて展開していく予定になっています。来年度以降は、J・A・B認定者を対象としたフォローアップコース、よりハイレベルのシミュレーション基盤型教育の手法を学ぶトライアルコースも計画しています。



講習会で利用していただく教材に関しても、マニュアル改訂ワーキンググループによる補助教材の開発やインストラクターマニュアルの改訂作業に取り掛かっています。インストラクターマニュアルの改訂では、従来の指導法をより発展させ、振り返り（日本流のデブリーフィングとすることができるかもしれません）を重視し、より柔軟なシナリオ演習を行えるようなものを検討しています。また、各インストラクターのレベルに応じて使い分けられるよう、シナリオ集も工夫したものに予定しています。



さらに、関連学会の学術集会時などにNCPRの新たな情報を提供したり、NCPRに関するご意見やご要望、疑問点などを直接ディスカッションする場として「NCPRセミナー」の開催が計画されています。第1回目を第57回日本未熟児新生児学会学術集会のサテライトミーティングとして2012年11月27日の午後に開催させていただく予定です。NCPRの新しい話題を共有させて頂くとともに、皆様のご要望、ご意見をお寄せいただき、NCPRをより良いものに変えていただければと思っています。

新生児蘇生法普及事業におけるトレーニングサイトの役割

茨聡

日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法委員会 副委員長
 トレーニングサイト運営ワーキンググループ長
 鹿児島市立病院 総合周産期母子医療センター 部長

平成23年度から、全国にトレーニングサイトが開設され、今年9月には中国地区のサイト（広島市立広島市民病院）がオープンし、さらには、筑波大学附属病院、埼玉医科大学総合医療センターが新たに加わり、全国で14カ所のサイト（下図参照）が整備されました。

これらのサイトでは、新生児蘇生法委員会が直轄する講習会等（インストラクター養成コース、フォローアップコース）が定期的で開催され、とくに実技実習を重点的に行うことを担っています。

昨年より、「インストラクター養成コース」は成人教育を念頭においた内容に大きく変わり、既に新しい受講者に対して、これらが実施されているところでありますが、過去に認定を受けたインストラクターの皆様には、この内容を補填して頂く「フォローアップコース」を提供する場になります。しばらくの間は、これらが交互に開催される予定ですが、講習指導方法等のスキルアップをご希望される方にも積極的に見学して頂けるように、今後とも検討を重ねてまいります。

(1) インストラクター養成コースの開催

インストラクターとして積極的に活動して頂ける方に対して、講習会を開催するための知識・実技実習を通して、新しい指導法の習得を目的としています。各トレーニングサイトでは、定期的（年1～2回）な開催が計画されています。

※受講対象者や応募条件については本普及事業ホームページをご参照下さい。

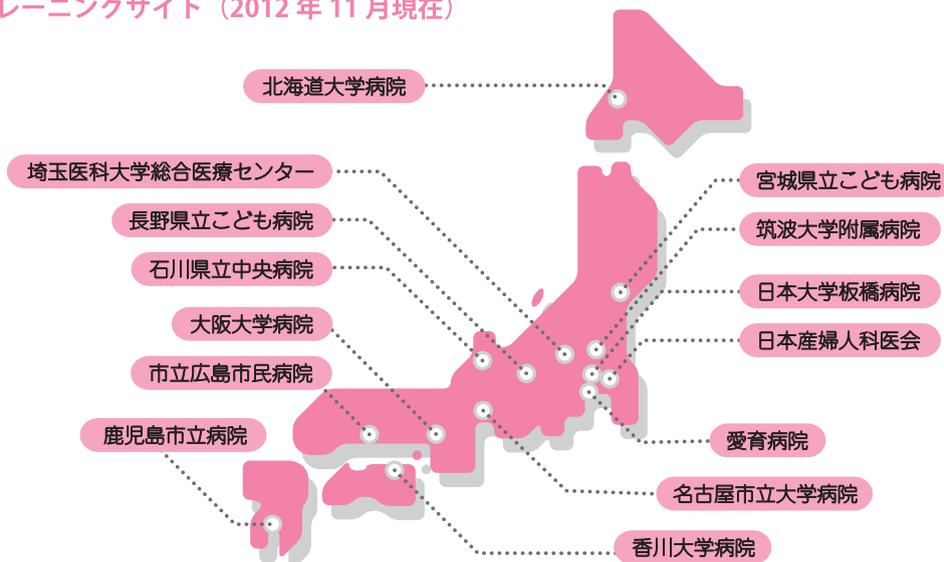
(2) フォローアップコースの開催

インストラクターの、5年毎の認定更新に際して、これらのサイトにおけるフォローアップコースを受講すれば、更新手続きが出来ることになりました。

もちろん、フォローアップコースはスキルアップを目指す方々を広範に受け入れ、日常的に技術の習得を図って頂くことを主目的としております。このことにより、熟練インストラクターから新人インストラクターの皆様が学んで頂けるように、臨機応変に豊富なメニューを掲げてコースを運営していきます。

今後、トレーニングサイトの活用により、新生児蘇生法の更なる普及と充実が期待されます。

● トレーニングサイト（2012年11月現在）



新しいインストラクター養成講習会の開催状況と受講者の声

和田 雅樹

日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法普及事業小委員会 委員長
新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 副センター長

これまでの講習内容を一新し、インストラクションの仕方を学ぶという本来の目的に特化した講習会として、2011年9月にNCPR専門コースインストラクター養成講習会（Iコース）がリニューアルしました。新Iコースの特徴は幾つかあり、Aコース認定済みであり、ガイドライン2010へアップデート済みであることが受講資格となったこと、その講習内容が全く新しいものになったこと、全国のトレーニングサイトで定期的に開催されることなどが挙げられます。その詳細に関してはP9をご参照いただきたいと思います。

新Iコースの実技演習では、1ステーション当たり受講者は6名以下、指導者2名以上の体制となっており、1講習会当たりの受講者数はこれまでより少なくなっています。しかし、各サイトで開催されるようになったため、2011年9月の長野サイト（長野県立こども病院）を皮切りに、2012年9月15日の広島サイト（広島市立広島市民病院）に至るまで、1年間で計18回の講習会が開催されました。（表1）

既に2巡目、3巡目に入ったサイトもあり、その結果として1年間で309名（1コース当たり17.2名）の方が新Iコースを受講されています。その受講者を職種別にみると、医師が230名、助産師が48名、看護師が31名で、医師の専門別としては小児科（新生児科含む）163名、産婦人科57名、その他10名となっています。最近は臨床の現場で中堅クラスになっている方の受講が多くなってきています。

新Iコースは受講者主体の講習会です。基

本手技やシナリオ演習での指導法やコミュニケーション・スキルについて繰り返し演習が行われます。アイスブレイクも重視されていて、講習会開始時に緊張気味だった受講者も、コースの進行とともに次第に柔らかく自信のある表情に変わっていく姿がよく見られます。NCPR講習会で重要なことは何かを受講者の皆さんに『気づいて』いただき、それによって行動変容が得られるよう、新Iコースのコースは設計・企画されています。

新Iコース後の受講者の意識の変化をアンケート結果からみてみましょう。（表2）

新Iコース受講後に90%以上の方が基本手技指導やシナリオ演習を担当できそうと答えてくれました。これは旧Iコース受講後に比べて有意に高い数字になっています。また、シナリオ演習の指導に関する意識もより受講者の主体性を重んじたものになってきていました。

新Iコースを受講された方々の多くは『今まで受けたことがないようなコースだった』、『教育法を見直すきっかけになりそう』という感想を挙げて下さいます。講習時間は約5時間半と長丁場ですが、多く受講者は『あつという間だった』『楽しかった！』という感想を持たれるようです。講習会というよりはセミナーに近い感覚だと思います。さらに嬉しいことは、新Iコース受講者の多くが修了認定後の比較的早い時期からNCPRのインストラクターとして活動して下さっている

ということです。臨床の現場において行動変容が得られていると考えていいのではないのでしょうか。

これらの声に励まされつつも、まだコンテ

ンツとして未熟な点の多い新Iコースを、皆さんの声を取り入れながらより成熟したものにしていきたいと思っています。

表1

開催日	都道府県	トレーニングサイト	受講者数
2011年 9月 24日	長野県	長野県立こども病院	10人
2011年 10月 23日	石川県	石川県立中央病院	11人
2011年 10月 30日	大阪府	大阪大学医学部附属病院	18人
2011年 11月 6日	北海道	北海道大学病院	16人
2011年 11月 20日	東京都内	愛育病院	18人
2011年 12月 10日	鹿児島県	鹿児島市立病院	18人
2012年 1月 15日	宮城県	宮城県立こども病院	18人
2012年 1月 22日	東京都内	愛育病院（コメディカル専用開催）	18人
2012年 1月 29日	愛知県	名古屋市立大学病院	18人
2012年 3月 10日	香川県	香川大学医学部附属病院	18人
2012年 4月 28日	石川県	石川県立中央病院	18人
2012年 5月 27日	大阪府	大阪大学医学部附属病院	17人
2012年 6月 9日	鹿児島県	鹿児島市立病院	18人
2012年 6月 16日	長野県	長野県立こども病院	18人
2012年 6月 30日	北海道	北海道大学大学院保健科学研究院	18人
2012年 7月 22日	東京都内	愛育病院	24人
2012年 9月 1日	香川県	香川大学医学部附属病院	15人
2012年 9月 15日	広島県	広島市立広島市民病院	18人

表2 Iコース受講後の受講者の意識の変化

	旧Iコース	新Iコース
蘇生の知識は増えた？	94.5%	94.7%
講義を担当できそう	50.9%	77.3%**
基本手技指導の演習を担当できそう	63.6%	93.9%**
シナリオ演習を担当できそう	67.3%	90.9%**
インストラクターとして活動できそう	50.9%	88.6%**

** p<0.01

修了認定の更新について

2007年7月にスタートしたNCPR講習会も5年目を迎え、「認定の更新」が開始いたしました。ここでは更新手続き方法についてご紹介いたします。

お持ちの修了認定の有効期限月の4か月前になりましたら、「修了認定更新のご案内通知」をご登録のご住所宛にご郵送いたします。ご住所変更等で届かない場合は事務局へご連絡ください。

更新のための講習は、「有効期限月の4か月前」から履修することができます。4か月前になりましたら早期に更新のための講習の受講を開始・修了され、所定の申請書類等を事務局までご提出してください。

●更新手続きを行うことができる講習は下記で示された3つの内のいずれかです。

(なお、更新についての講習その他お手続きの詳細については、NCPR ホームページに掲載されておりますのでご参照ください。)

1

「eラーニング」の受講



※詳しくは本ニュースレターのP2～P6をご覧ください。全ての履修を修了すると、「eラーニング修了証明書付認定更新申請書」がダウンロードできます。

2

「公認講習会(専門コースおよび一次コース)」で実施される「講義」を聴講



お近くの「公認講習会」の講義を聴講し、主催者もしくは担当インストラクターより受講証明書付認定更新申請書に署名をいただいでください。

3

「フォローアップコース」を受講



※フォローアップコースの開催予定についてはホームページをご覧ください。

上記の講習のいずれかを修了されたら、認定更新料をお振込みのうえ、所定の申請書類等を事務局までご提出ください。

新しい有効期限の修了認定証と認定カードをお届けいたします。

今後「継続学習」へ向けた学習支援サービスなど様々な取り組みを行い、さらにNCPRを発展させていきます。是非有効期限までに認定更新を行ってください。

N CPR講習会 開催だより

2012
N CPR



今回は遠野市主催新生児蘇生法講習会と
神奈川N CPR委員会のご紹介です。



出産施設の少ない岩手県南沿岸部で 大事な命を守る 遠野市主催新生児蘇生講習会の歩み

小笠原 敏浩 菊池 幸枝¹⁾ 昆野 幸恵¹⁾ 菊池 永菜¹⁾

岩手県立大船渡病院 産婦人科
1) 遠野市助産院

産婦人科医療過疎地域である岩手県南沿岸地域では、平成 21 年 1 月から助産師・救急救命士対象に新生児蘇生法講習会を遠野市で毎月開催してきました。遠野市を会場に設定したのは、その地理的条件によるところが大きく、岩手県の真ん中に位置し、沿岸と内陸の中継点となっていることが主な理由です。開催してきた講習会には、沿岸部だけでなく内陸の助産師・救急救命士が多数参加されており、本稿ではその歩みについて述べさせていただきます。

新生児蘇生法講習会開催までの歩み

岩手県は、産婦人科医師不足により平成 14 年から出産施設の閉鎖が相次ぎ、遠野市も平成 14 年から産婦人科休診が続きました。産婦人科医療過疎地域とも言える岩手県南沿岸地域の中核病院である岩手県立大船渡病院は、県立釜石病院や産婦人科医療機関のない遠野市と共同して、地域格差の是正と安心安全な妊娠出産を提供できるように、IT を利用した遠隔妊婦健診を開始しました。

また、これを機に遠野市立助産院“ねっとゆりがご”が開設され、この遠隔妊婦健診を軸にして、地域に根づいた妊婦ケア・新生児ケアを行っています。市内に産婦人科施設がないため、この軸が唯一の拠りどころとなっております。

このように、地域で連携した取り組みを推進してきましたが、出産施設が極端に少なく遠いために、社会

的問題となっている妊婦健診未受診妊婦・飛び込み出産や施設外出産が課題となっております。もし間に合わずに施設外で分娩となった場合、最初に駆けつけるのは救急隊・救急救命士や同乗した助産師であるケースが多くなります。

そこで、「地域で連携して大事な命を守るプロジェクト」の 1 つの取り組みとして、助産師・看護師・救急救命士を対象とした新生児蘇生講習会を企画し、標準プログラムを習得し実践する「遠野市主催・新生児蘇生講習会」を開始しました。

講習会の開催状況

平成 21 年 10 月 5 日に、第 1 回の遠野市主催新生児蘇生講習会を開催する運びとなりました。講習機材を準備し、インストラクター 1 名、アシスタント 2 名で

スタートしましたが、平成 23 年からはインストラクター 2 名の体制で行われています。

「遠野の里で楽しく学ぼう」をモットーに、県内の助産師・救急救命士に参加を募り、平成 21 年 10



神奈川県N CPR委員会

<https://sites.google.com/site/kanagawancpr/>

Aコース講習会は「Bコースインストラクター（J認定）養成コース」

星野陸夫

神奈川県立子ども医療センター 新生児科

【神奈川県N CPR委員会】

委員長：猪谷泰史（神奈川県立子ども医療センター）

委員：粟生耕太（みなと赤十字病院）
伊坂雅行（社会保険相模野病院）
岩崎志穂（横浜市立大学附属病院）
喜多麻衣子（横浜市立大学センター病院）
島袋林秀（旧・横浜労災病院 新・聖路加国際病院）
城 裕之（横浜労災病院）
関 和男（横浜市立大学センター病院）

西澤善樹（日本医科大学武蔵小杉病院）
西巻 滋（横浜市立大学附属病院）
野渡正彦（北里大学病院）
飛驒麻里子（横浜労災病院）
正木 宏（聖マリアンナ医科大学病院）

事務局：星野陸夫（神奈川県立子ども医療センター）

2007年から新生児蘇生法普及事業が開始されました。Aコース修了認定者がBコース・インストラクター（J認定）になれるというピラミッド構造を特徴とした反面、当初はIコースに教育方法に関する講習が含まれていなかったため、受講しても教え方が解らず、講習会開催を躊躇しがちな状況でした。

神奈川県は出生数が東京に次いで全国二番目ですが、I認定インストラクター数が少なく、講習会開催・受講者数ともに少ないという状態が続きました。

そこで県内におけるN CPR普及を目的に、2008年10月に県内のI認定を持った小児科医10名で「神奈川県N CPR委員会」を立ち上げて、Aコースを「Bコース・インストラクター（J認定）養成コース」と位置づけて定期開催することにしました。

講習会では講義の別室で補助参加者に対する指導実習を行い、正規の講習会のあとに教え方のポイント講習を追加で行うなど、インストラクター養成に向けた内容を組み込みました。実習指導用にオリジナル資料「実習の手引き」を作成して講習指導の均一化を目指すと共に、受講者にオリジナルのピンバッジを配布して、周囲がN CPRに興味を持ってもらえるよう仕向けました。(図1)

また受講者のフォローアップのために全員をメーリングリストに登録するとともに、メンバーホームページで資料や講習会情報を共有しています。このメーリングリストは今では300名を超える県内周産期医療者の一大ネットワークを形成するに至りました。そうした上で、県産婦人科医会や県助産師会が主催するBコースにJ認定をインストラクターとして斡旋する事で、県内N CPR普及において連携を取るよう努力しています。(図2)

図1 神奈川県N CPR委員会主催Aコース

受講者募集数	オリジナル・ピンバッジ配布
●第1-2回 12名(6名×2ブース)	
●第3-10回 16名(8名×2ブース) 第10回は救急救命士のみ	
●第11-18回 24名(8名×3ブース)	
●第19-20回 16名(8名×2ブース)	

開催年度	開催数	受講者数	補助参加数
平成20年度	3	40	16
平成21年度	6	93	53
平成22年度	5	110	34
平成23年度	4	75	42
平成24年度(9月現在)	2	24	13
合計	20	342	158

実人数119(35%)

図2 神奈川県産婦人科医会・助産師会Bコースとの連携

- 神奈川県産婦人科医会Bコース(受講者 各回8名×4ブース=32名)
平成21年度 2回
平成22年度 4回
平成23年度 4回
平成24年度 2回(9月現在)
受講生 計369名
各回に委員会からI認定1名、J認定8名を斡旋した
- 神奈川県助産師会Bコース(受講者 各回9名×3ブース=27名)
平成22年度 1回
平成23年度 3回
平成24年度 1回(9月現在)
受講生 計132名
各回に委員会からI認定1名、J認定6名を斡旋した

神奈川県産婦人科医会・助産師会Bコース
メンバー開催の院内Bコース向けにも
オリジナル・ピンバッジ提供



神奈川 NCPR 委員会が主催する A コースは、開催手順に慣れるにつれインストラクター指導に重きを置く方針を展開させて、受講者の約 4 割が J 認定を目指して補助参加している状況です。さらに J 認定を取得したうちの 4 割が実際にインストラクター活動に携わっており、J 認定数・活動の割合ともに全国でもっとも J 認定が活躍している地域だと自負しています。特に小児科医はもとより、助産師・看護師の J 認定のインストラクター活動率が高いと言う特徴があり、現場の最前線にいる意識の高さの表れかと感じています。しかも助産師・看護師のインストラクションは、見習うべきところの多い上手な指導がとても好評です。(図 3)

そうした J 認定の活発な活動を後押しするために、学会事業に先駆けて 2010 年からインストラクターのための「ブラッシュアップセミナー」を年 1 回開催して、懇親・研鑽と共にモチベーションの維持を図っています。また神奈川 NCPR 委員会主催の講習会を受講した J 認定が開催する B コース向けにもピンパッチを配布して一層の普及を目指しています。

こうした地道な活動が実ってか、ここ数年における県別インストラクター数で J 認定と J 認定を合わせて、出生数比較でようやく東京都並みのインストラクター数となりました。受講者数も 2008 年に比べて、東京が 10 倍に増える中で 30 倍という飛躍を認めました。(図 4) しかしまだまだ十分な普及状況とは言えず、加えて

NCPR 普及が実際の新生児蘇生率改善につながっているかどうかなど、今後に向けて課題がいくつも残されています。

NCPR は新生児蘇生におけるひとつの言語で、みんなが同じ言語を使えるようになる事で初めて役に立つものだと思っています。神奈川県という人口・出生数の多い割に J 認定インストラクターの少ない地域として、J 認定を中心に、みんなで一緒に楽しく普及活動を続けていきたいと思っています。



図 3 都道府県別 J 認定者の活動状況 (2012年6月)

	J 認定数	実活動数 (%)	延べ活動数	一人当たりの平均活動数
神奈川	170	73 (43)	225	3.1
東京	93	36 (39)	94	2.6
千葉	60	11 (18)	39	3.5
山梨	55	30 (55)	63	2.1
北海道	54	12 (22)	17	1.4

神奈川県内の職種別 J 認定者の活動状況 (2012年6月)

	産科	新生児科	小児科	他科医師	看護師	助産師	合計
J 認定	18	9	37	5	35	66	170
インストラクター活動者	7	3	15	2	15	31	73
活動率 (%)	39	33	41	40	43	47	43

図 4

